ふるさとへの年賀状

やあ一 新年おめでとう

……村を離れて30年……

熊谷市在住
中村良三
出身 横越上
（昭和6年生まれ）

小学校を卒業して三年後の昭和二十四年、村を離れてから三十年になりました。想えば学歴もなく特技とてない文字どおり裸一貫で、戦後の激動の世の中に身を乗り出し、人生のサイコロを振りつつ、住所も点々職も色々と替え紆余曲折をみながら、三十年はアットいう間にすぎた感じです。

今は埼玉県熊谷市に巣を作って妻と二人の子供の四人で平和に暮しており、勤め先は東京芝浦電気鶴深谷工場です。

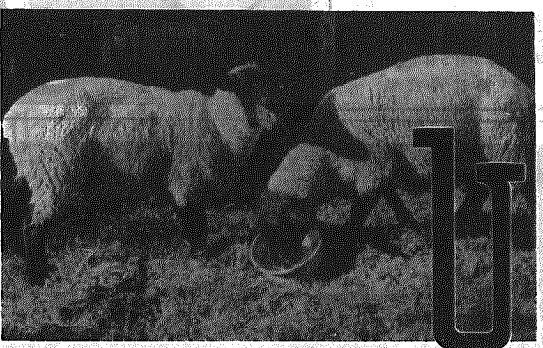
この工場は従業員四千人おり、横越中学校出身が数名来ています。私の仕事は大型バス十三台、乗用車等五台、それに運転手十六名を預かる運転責任者として、従業員の通勤、来訪者の送迎に当っています。

故郷で開かれる同級会に出席するのが大変楽しく、その度横越村も随分と変っていくので驚いている有様です。県道が国道に、砂利道が舗装に木の橋の横雲橋が鉄筋になり中学校も公民館も立派にできて、子供の頃、魚を取ったり泳ぎ遊んだ新川はコンクリートになり、あの懐かしい小学校も又象徴的な老松もなく、別の所にモダンな統合小学校として生まれ変り、何もかも変ってびっくりしています。教育に力を入れていることが伺えます。

農作業等も総べて機械化され、服装も都会の人と変りなく、昔の農村という感じはなくなったようですし、今はむしろ田舎の方が暮しよいのかもしれませんね。何時でしたかNHKテレビで「チューリップ栽培全国屈指の横越村」と紹介された時は、故郷の田園風景がこんなにも美しく甦ったことはありませんでした。

故郷の自然は何時までも大切にと祈りたい気持でした。最近は石油等も出ると聞き、一歩一歩逞しく伸びていく村だと期待しています。

昔、童顔の村の同期の桜も花ビラが一つ散り二つ散り悲しい便りも聞かされ、亡き友の冥福を祈ると共に、友人皆様のご健康、ご多幸をお祈りし新年のあいさつとします。



郷里の皆様、新しい年を迎えておめでとうございます。

白くなった五頭の山並、阿賀野川ラインの美しい自然は何時でも懐しく思い出されます。

私は横越を離れて、丸と十年になります。毎年、年一回の里帰りは、楽しみの一つになって居ります。帰る度、昔の素朴な思い出が一つ一つ消えてゆくような気がして、淋しく思われます。

印象深い石ころのデコボコ道は、ピカ〳〵の舗装に変り、木造りの建物も新しく建て替えられ、何処にもブロック塀がまわされ、都市化が進むに従って変ることはいざ仕方ない事と思いますが、私にとって、郷里の懐しい思い出が、年々帰るたびに薄らいでいくような気がしてなりません。

私の住む高萩市は、茨城県の北端、日立市の北隣りにあたります。人口は三万ちょっとの清そな街で、近くには炭坑の跡があちこちに残っています。

町の産業は、主人の勤めている日本加工紙が一番大きく隣りの日立に勤める人も多勢です。天候にも恵まれポカポカ天気です。十年前に持って来た長いオーバーが、タンスのすみにまだ眠っています。

私の性格もこの土地にぴったり、郷里の横越と同じ位大好きです。ただ雪国に育った私にとって、雪どけになんともいえない春の気配を感じる事ができないことです。

昨年は幼稚園の役員をさせて頂き、いろ〳〵の人と交流し、大変忙しく、又はずかしい事も多くありましたが、とても充実した年だった様に思われます。今迄、子どもの為に、主人の勤務の関係上、あまり外に出る機会がありませんでした。今年は子どもも四年と一年と二人で学校です。

これを機に自分の事を考え直す時期に来ている様に思います。趣味、生きがいを見つけ、張りのある充実した日を送りたいと思います。

これからの横越の益々の御発展をお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。

茨城県高萩市在住
藤田周子
（旧姓 神田）
出身 沢海（昭和18年生まれ）

新年おめでとうございます

永木トシエ　木津中
（昭和6年生まれ）

私は五回目の羊年を迎えました。いつの間にか五〇の坂を越えようとしております。

何げなく過した人生を振返ると、昭和十八年の時代は、日支時変と大東亜戦争との連続で困難の真只中の青春でした。

「はしがりません、勝つまでは」の相言葉に何でも我慢して来ました。学生時代に先生より「立つ鳥は後を濁さず」とか、「憂き事もなほこの上に積まれかし限りある身の力試さん」と言う古歌を教えられました。これがどれ程今日まで生きて来た私の心の支えになった事でしょう。今も先生に感謝の気持で一ぱいです。

二度とあの苦しい時代が来ないよう祈ります。

目まぐるしく変る世の中に一生懸命生きて来ました。

子供を育て、孫が出来、ほっと一息つくともう人生の半分が過ぎてしまいました。

これからは社会におくれぬよう勉強し、若い人達にきらわれぬよう努力して行きたいと思います。又多くの人達とのふれあいを大切にし、後に悔いのないよう生きて行きたいと思います。

新春特集

◎消費者と業者の座談会

食品衛生協会横越分会では12月4日公民館で、消費者と業者の座談会を開催しました。

この座談会は年毎一回開催されるもので消費者の食品に対する知識と、業者と消費者の食品衛生についての理解をふかめることを目的としておこなわれているものです。

この日、出席した村の業者は十一業者、又消費者側からは二十四名、助言者として新津保健所田中衛生課長をむかえ、役場から保健課、そして村の商工会が出席し活発な座談会が開催されました。この座談会のもようを照会しましょう。

消費者側…パック詰めの食品は本当に衛生的なのですか。又近年そのパック詰め等の包装が過剰ではないでしょうか。

業者側…まず業者としては取りあつかいが便利である。見た目がきれいであるなどの利点がある。

助言者…パック詰めの生鮮食料品についてその保存を、まちがわないように、魚類では生ものマイナス五度、冷凍魚マイナス十五度以下に保存してほしい。

役場…近年、パック詰め等の包装された食品が多く出まわっていますが、その過剰包装ともいえる包装ゴミが多く出、問題となっています。ゴミの分別はしていますが、ゴミは燃やして消却するとともに有害なガスが発生し公害問題となるばかりか消却炉を高熱でいためる原因にもなるので分別には十分気をくばってほしい。

消費者側…ゴミを少なくする運動が各地で高まっていますが、現在のように商品全般におよぶ過剰包装について業者の方がたはどのように考えていますか。

業者側…パン類の包装は販売地域が広いためパック詰めになることが多い。小売業者が消却しきれないダンボール等は回収し、会社で消却している。

そのほか消費者側からは豆腐に製造年月日を入れてほしい。腐敗した食品を取り替えに行った場合、気持よく取り替えてほしい、などの意見が多く出され、食品知識や衛生についておたがい理解をふかめあいました。

税金還付の申告

税金の還付を受けるための確定申告は、2月15日以前でも受付けます。

税金が還付される人は…

①住宅を新築したり、新築住宅を買った人。

②病気などのため多額の医療費を支払った人。

③災害や盗難にあって損害を受けた人。

④52年の中途で退職し、年末調整のしてない人。

⑤予定納税のある人で、確定申告の必要がなくなった人……などです。

還付される税金が、3万円以上になる方は、申告書に受取る銀行や郵便局の口座をお書きください。

税務署からの振込みで、受取りに出向く手数がはぶけます。